

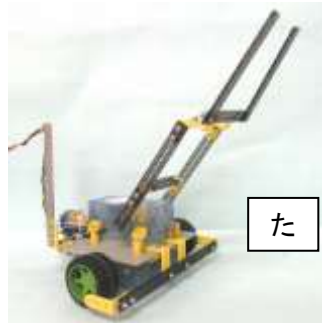


創造アイデアロボットコンテスト関東甲信越地区大会に出場

12月1日(日)に藤岡市総合学習センターで「創造アイデアロボットコンテスト関東甲信越地区大会」が開催されました。10都県から各地区の推薦を受けた代表チームが参加しました。科学部では、基礎部門に玉村中学校や伊勢崎第三中学校の選手とともに、「純白のドングリ連邦」(松本 健くん、小林大輝くん)と「た」(大和達生くん)の2チームが出場しました。午前の予選リーグでは、参加32チームが8リーグに分かれて試合が行われました。2チームとも予選リーグを勝ち進み、決勝トーナメント(ベスト16)に出場することができました。午後の決勝トーナメントでは、アイテムを大量に取り込むなどのいろいろなアイデアを活かしたロボットが出場していました。



純白のドングリ連邦



た



全国小中学生ロボット選手権に出場

12月15日(日)に御坊市立体育館(和歌山県)で「全国小中学生ロボット選手権2024」が開催されました。前橋テクノフォーラム実行委員会の推薦を受け、「ロボット大戦争3」(圓城寺ガブリエルくん、上原陽向くん、原 礼くん)が中学生の部に出場しました。



全日本小中学生ロボット選手権は、和歌山県内や近畿、栃木、群馬、岐阜、福井、島根、徳島、福岡、佐賀、熊本に加え、長野、静岡、鹿児島が初参加しました。各府県の予選会を勝ち抜いた精鋭が出場し、14日は御坊小体育館で予選リーグ戦を行い、県内チーム(5ブロック15チーム)と県外チーム(13府県24チーム)から決勝トーナメントに進むベスト8を決めました。生徒達は、会場に集まったロボットを見て「すごいロボットがいる!」と、自分達では考えつかなかったアイデアや機構のロボットが多いことに驚いていました。15日は市立体育館で決勝トーナメントが行われ、ハイレベルな熱戦が展開されました。チーム「ロボット大戦争3」は、上位入賞は叶いませんでしたが、特別表彰の一つ「まいど1号大賞」を受賞することができました。

この12月の二つの大会を通じて、「自分の頭の中のアイデアを形にすることの難しさ」と「ロボットを上手く動かすことの大切さ」を改めて感じました。また、科学部員一人一人が自分の現状に満足するだけでなく、部員間でお互いを高め合える活動を目指したいと考えています。

全日本小中学生ロボット選手権から



特急くろしお号に乗って



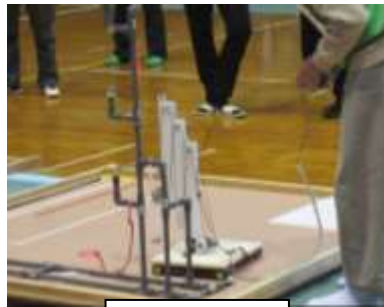
県外リーグ会場



車検を受けます



福岡県代表



岐阜県代表



スーパーロボットデモ



まいど1号大賞受賞者



大会終了後の交流



大会終了後の交流

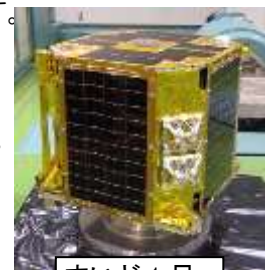
「まいど1号大賞」（株式会社アオキ賞）について

全国小中学生ロボット選手権（小学生の部・中学生の部）では、アイデア大賞やデザイン大賞などの特別表彰が設けられています。チーム「ロボット大戦争3」が受賞した「まいど1号大賞」は、チャレンジ精神に溢れたロボットに贈られるものです。

この「まいど1号」とは、「東大阪から宇宙へ」を合言葉に、東大阪市の町工場が作り上げた小型人工衛星です。

2002年、不況に苦しむ大阪を活気付け、若い世代へものづくり技術を伝えたいという町工場の思いに、国の機関が衛星の制作を依頼。プロジェクトが始まりました。町工場の人たちは、ミリ単位の誤差もゆるされない部品を、高い技術で作りました。2009年、まいど1号は宇宙への打ち上げに成功。専門の技術を持ちよれば、人工衛星も作ることができる。東大阪の高い技術力は、宇宙の分野でもしめされたのです。株式会社アオキの取締役会長、青木豊彦氏は「まいど1号」開発プロジェクトの発起人でもあります。（NHK for schoolより）

まいど1号のサイズは約50cm×50cm×50cm、質量約50kgです。このサイズは、今回の中学生の部のロボット・レギュレーションと同じです。



まいど1号